



編集者 大分県玖珠郡九重町松木宝
 発行者 宝八幡宮 宮司 甲斐素純
 (☎0973-76-3254)

発行日 令和 3年11月 吉日

神輿の初巡行

〈歓迎と反省〉

今年も新型コロナウイルスの影響下、万全を期して恒例の十月七日〜九日の秋季大祭を一部中止としました。その代わりとして、中日(八日)に大祭式の神事を来賓の方々と総代のご出席を戴き、執り行いました。

また今年新しくなった神輿のお披露目を兼ねて、軽トラに乗せて氏子の隅々まで当日午後一時より、巡行をいたしました。

その際音楽(雅楽)を鳴らす予定でしたが、当方の手違いで鳴らせずじまいでした(いつ通ったか、気付かなかったのご指摘あり)。また一部の地区では、通るはずで待っていたのに来なかったとの、きついお叱りを頂戴いたしました。通報をいただき、最後にかけつけました。二地区には、大変失礼をいたしました。深くお詫びいた



します。
 以上のような反省点もありましたが、初めての巡行ということで、氏子の皆様方には大変喜んでいただきました。少し足の弱っている方々も、家の前で出迎えて下さり、「神輿様が我が家に来てくれた」と言ってお手を合わせていました。またご神前には、初穂料やご神酒を沢山頂戴し、お礼を申し上げます。次回の巡行には様々な反省点を踏まえ、工夫をしながら準備をいたしたいと思っております。皆様のご忌憚のないご意見を、賜りたいと存じます。

(宮司深謝・再拝)

一、コロナ下の神輿巡行秋晴るる
 一、金ぴかの神輿おひろめ秋祭り



の旗立ては中止されても結構ですと記しましたが、各地区では自主的に旗を立てて下さっていました。また恵良地区では、紅梅山の旧神幸所の清掃と旗も立っていました。

(感謝)

【丸塚の清道旗】

【中須地区の皆様】

各地区では、それぞれ思い思いにご神酒やお初穂をご奉納いただきました。誠にありがとうございました。

秋祭りのご案内状には、清道旗



甘川水地区の皆様（公民館前）



書曲一、二地区の皆様（公民館前）

季節・人生のまつり

私たちの人生の中には、様々なおまつりがあります。初宮参り、成人式、結婚式といった人生の節目には、ご家族の安全やお子様の健やかな成長を祈願し、みんなでお祝いしましょう。

令和4年 厄年表

男性		
前厄	本厄	後厄
24歳 (平成11年生)	25歳 (平成10年生)	26歳 (平成9年生)
41歳 (昭和57年生)	42歳 (昭和56年生)	43歳 (昭和55年生)
60歳 (昭和38年生)	61歳 (昭和37年生)	62歳 (昭和36年生)
女性		
前厄	本厄	後厄
18歳 (平成17年生)	19歳 (平成16年生)	20歳 (平成15年生)
32歳 (平成3年生)	33歳 (平成2年生)	34歳 (昭和64年/平成元年生)
36歳 (昭和62年生)	37歳 (昭和61年生)	38歳 (昭和60年生)
60歳 (昭和38年生)	61歳 (昭和37年生)	62歳 (昭和36年生)

※数え年は、誕生日前の場合は2歳、誕生日を迎えている場合は、1歳を足して計算します。
※なお、祈願する年齢や時期は、地域によっても異なりますので、詳しくはお近くの神社にお尋ね下さい。

「雑巾」ついに物申す

始めは、きれいな、しろ〜い白いタオルだった。おばさんの顔を、きれいに拭いてあげていた。おばさんも、私を大事に使ってくれていた。お洗濯もして、きれいな白だった。

しかしだんだん私も、くたびれてきた。布地もほつれたようになり、色も薄汚れてきた。そんな私を見て、おばさんは雑巾にしようと思いい、私を戸棚の中にした。

その戸棚の中には、私のような仲間がいた。皆次の出番を待っている様子。お互いあまりおしゃべりをしないのだ。自分の先が見えているからかしら。仲間が少しずつ減っていった。私の出番の日が来た。

いきなり、バケツの中でもみくちやにされ、しぼられた。綺麗なタオルの頃も洗濯機の中では、少々手荒なことはあったけどきれいになるためだったから、うれしかったわ。でも今度は……。

それから、おばさんの手によって、床を拭く仕事が始まった。でも、拭き掃除は楽しいよ。私がきれいにすると思うとうれしかったね。またおばさんの手によって使われることが、わたしの喜びでした。おばさんは、楽しそうにする日もあれば、だるそうに拭く日もあった。

私はどんな時でも、一生懸命働きましたよ。ある日のこと、ふと気が付くと色白だった私は、ネズミ色になっていました。ちなみにこのおばさん、ネズミが大嫌いらしい。天井でネズミの足音がするだけで、びくつく。ネズミのふんでも見ようものなら悲鳴をあげる。先

日ついにネズミをみたらしい。椅子に飛び上がり、しばらくおりられなくなった。出かけている家族に電話して、帰ってきてとまで言ったと言わなかったとか。私はその姿をみて、心底笑ってしまったけどね……。

ついに私は台所の掃除係になりました。ここは大変汚れる所で、わたしは益々色が濃くなりました。

ある時、おばちゃんが私を足で踏みつけ拭いたのだ。痛みはなかったが、深く傷ついた。こんな自分でも、プライドはあるのだ。「足で踏みつけて掃除するとは何事だ」と、怒鳴ってしまった。でも聴こえなかったようだ。

ある日、花を活け変えていた。枯れた花を窓からポイとほうりやった。捨てられた花達の、「キヤー」「アレー」という声が聞こえた。

あのなあ、おばちゃん、もう少し優しくしてくれないかな。いくら用済みの私達でも、共に過ごしたという、あの時間はなんだったのか、考えてしまう。

物申す。すべての物には「心」があるのだ。最後まで優しく扱って欲しくないかなあ。

(社守)

神社でのご祈願

神社では様々なご祈願を受け付けています。いつもより神さまに近い場所、お願い事を届けてみては如何でしょうか。

- ・皇室彌栄・国家安泰
- ・神恩感謝・五穀豊穡
- ・大漁祈願・家内安全
- ・身体健全・商売繁盛
- ・学業成就・交通安全
- ・旅行安全・縁結祈願
- ・子授祈願・病氣平癒
- ・心願成就・地鎮祭
- ・竣工祭・自動車清祓
- ・厄除祈願 など

